

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会		
事業所名	グループホームメヌエット		
所在地	兵庫県西宮市浜脇町4-33		
自己評価作成日	令和3年8月12日	評価結果市町村受理日	令和3年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ 兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和3年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームで暮らしてくださる生活者様の尊厳と自由を尊重し個人個人のニーズに沿った質の高い安心していただける支援を提供致します。

生活者様の皆様がゆとりのある空間において『第二の我が家』と感じて頂き 職員とのんびり暮らしていただけるように環境を整えていきます。

コロナ禍において外出レクができていませんが、施設内庭園を上手に利用していくことも大切にしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「我が家と感じていただく」を支援の基本に、自宅に居た時と同じようなペースで生活頂けるよう、特に起床・臥床時間等は決めずに暮らしてもらっている。運営にあたっては管理者とユニットリーダーと3人で常に話し合い、意思疎通を図りながら進めている。職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員も定着している。コロナ後を見据え、利用者と家族が手を取り喜び会える、それまで地道な温かい支援を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居されている方だけではなく職員も「ゆとり」を持ち楽しく笑顔で暮らして頂く(職員は楽しく働いてもらう)環境をつくり職員一丸となって日々実践しています。	理念の柱である、利用者に「我が家と感じていただく」ため、先ず職員が笑顔を絶やさず楽しく胸に、ユニットの目標を定め日々実践し、年度末には振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において以前のような繋がる出会いはできていません。メールのやり取りや運営推進会議参加者の方々の協力において『繋』が継続できていると思っています。	コロナ禍では地域との触れ合いは難しいが、朝の敷地内の清掃時や、運営推進会議に出席頂いた方々のお話を伺い、コロナ後に備えている。	利用を希望する待機者が減少傾向にあると聞く。コロナ後を見据え、利用料を上回る"良さ"をどうアピールするか、更なる地域とのつながりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの立ち上げを法人としておこなっていましたが、コロナ禍において延期に。(サポート養成講座も現在中止中)	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者の皆様から意見やアドバイスを頂いていますので、その内容を職員にも伝え参考にさせていただきながら、飽きのこない生活を目指し日々努力しています。	体温測定・手指消毒とマスク着用をお願いして、対面での会議を行う事ができた。参加者から頂いた意見等は、職員会議で伝達してサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居宅からの電話も多いのでその時に、現状の把握と確認をしています。また、運営推進会議報告書を役所に提出に行く際にも情報収集をしています。(グループホームでの取り組みも伝えています)	コロナ禍で感染症対策の連絡・情報交換が多くなった。市役所職員は気軽に相談・アドバイスいただける関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対しては、毎月開催される『リスク委員会』において身体拘束禁止についても話しをしています。グループホームだけではなく併設している特養も含めて身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	寛ぎの時間には車椅子のままでいいか、ソファーで着られるか等、リラックスして生活いただけるよう声掛けしている。毎月の「リスク委員会」で振り返っている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人にて虐待防止委員会を設置。月1回の各部署代表集まり会議と現状の意見交換をおこなう。半年に1回ペースで各職員からの聞き取り調査もおこない防止策を話しています。また法人内研修もおこなっています。	虐待を見逃さないよう、職員のコミュニケーション能力と何でも言える(考える)チーム作りに努めている。毎月の「虐待防止委員会」で振り返っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員との話し合いの中で、自立支援事業や成年後見人制度の話はしています。入居前の家族様へも制度の説明をさせて頂いています。また、お家族様へも再度、後見人制度のお話をしています。	この8月から1名が後見制度を利用することになった。併設の特養にも制度利用者がおられ、施設長とも相談・連携できる環境にある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時は必ず来訪して頂き口頭での説明をおこなっています。改定については、まずは『お知らせ』文を送付させて頂いた上で、今のコロナ禍においては電話説明を再びおこない理解納得をしていただいています。	利用者・家族から質問が多いのは、重度化した場合の生活である。併設施設も見学頂き、不安や疑問にも丁寧に説明を行い、理解・納得を頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おかげさまで、現在入居して下さっている家族様は貴重なご意見やアドバイス(情報)をくださいます。利用者様からも意見(今の気持ち)を職員に伝えてくださいますので反映できるものはさせていただきます。	利用者には声掛けに努め「今の気持ち」をお聞きし生活に反映している。家族とは、メールや電話で利用者の様子をお伝えし、要望を聞くように努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションはとれているので、職員からの意見や提案は多いかと思えます。その意見や提案をまとめ、施設長へ伝えることはしています。この夏の賞与から、特別賞を法人として考え金一封と表彰をすることになりました。	管理者は半年毎に個別に面談の機会を持ち、意見・要望を聞いている。新たに特別に表彰する制度を設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員との話し合いは設けています。有給も必ず使用できるように(希望を叶える)全員で対応しストレスを感じずに勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修への参加と共に、その日その日にテーマを持って働いています。「わからないことはみんなで話をする」を実践しケアに努めてきています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に置いて中々、管理者の集まりも自粛しており、運営推進会議等で知り合いになった管理者へは、連絡をとりながら情報収集をし活かしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者がメインにならないように職員主導で対応しています。接遇もしっかりとできる職員が増えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者やケアマネージャーが主体とならないように介護職員も同席を必ずしてもらい努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めは、なるべく本人様が施設前に住まれている家でできるだけ近づけて居室作りをし、共同生活に慣れ親しんでいただくようにしています。本人様、家族様の希望支援を確認し対応にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員との信頼関係を築く、築けるように同じ空間の中で暮らしてもらえるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に暮らすストレスをなるべく軽減して頂くために、家族様との本人様の面会には力を入れています。(コロナ禍においては、家族様とのテレビ電話面会や動画を撮影させてもらい記憶に残していただけるよう対応しています)		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会も家族様の要望があれば対応にあたっていますが、コロナ禍においてはガラス越し面会を中心に電話(施設でPHS準備)でお話をしてもらえるようにして努めております。	要望をお聞きして、年賀状・暑中見舞いの作成に取り組んだ。中々書きにくい方も、職員が下書きして、上からなぞって書いて頂く等工夫した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々、口喧嘩をされるケースもありますが、その方々に合ったレクリエーションを考えますし、皆さんで仲良くしてもらえるように職員が間に入り支援させていただくこともあります。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養にうつられた(メヌエット特養中心に)家族様や入居されていた方々へのフォローは欠かさずにおこなっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「思い」を伝えてくださる方が多く職員とのコミュニケーションの中で生まれた希望には近づけるように工夫をしていますし、家族様も協力をして下さいます。	職員は、日ごろから業務を通じて、常に利用者の様子について注意を払い、細かなことについても、情報共有していくことが出来ている。家族も気軽に職員に声掛けできる環境が整っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で慣れ親しんだ品物や家具を居室スペースは限られていますが、環境を整えています。また、居宅利用者(入居前)へは、利用していた居宅に確認をしながらグループでの暮らしも悪くないと思ってもらえるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、食事や排泄、入浴チェック表を使用しながらその日その日の対応を考え現場職員はチームケアに努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ユニットで個々にモニタリングや介護計画を考えできるだけケアマネージャーや管理者が中心にするのではなくユニットリーダーを中心にチームで家族様や本人様と相談をし計画を練っています。	定期的な見直しの際には、検討チームと共に、主治医として協力のある平川クリニック・みやけ内科クリニック・中嶋クリニックの医師が職員の相談にも意見交換ができ、計画の見直しについて情報が得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のユニット会議で各入居担当者からの意見を出し合い記録とすり合わせながら情報共有に力を注ぎ実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現場職員が中心となり新たに生まれてくるニーズに対応してくれています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において近隣の地域資源との協働はできていませんが、暮らしを楽しんでいるだけに施設内にあるものを利用し対応しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診とは別に受診に家族様同行にて対応しております。現在の状況において受診が唯一の家族様と本人様との寛ぎの時間ができるので支援しています。(コロナ禍において十分な面会ができていないので)	かかりつけ医は月2回の往診があるが、その他、家族同行の受診が困難な場合や、転倒などの事故の場合は、職員は、状況説明の必要もあり、必ず同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養併設において看護師もグループへは力をかしてくれます。看護師ならではのアドバイス、また看護師から認知症の入居者への対応方法を職員に聞いてくれる認知症ケアの情報交換はできています。受診対応時にも快く引き受けてくださる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との電話対応はできていますし病院側からも情報状況報告をしてくれているので助かっています。「できるだけ早くグループにもどれるように」を考えて管理者からも伝え連携室からもこちらに伝えてくれています。	入院先となる医療機関の連携室とは、折々に連絡を取り、情報提供をしてもらえる関係ができており、医療行為の必要が無くなれば、なるべく早くホームに帰れるよう対応されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養と併設において介護度が高くなった方々へは、特養の申し込みが可能になったことはお知らせします。グループでと希望して下さる方々へは方針を述べさせて頂き取り組んでいます。重度化になった時点では主治医、施設看護師そして家族様と話し合いの場を設け本人様にあった終末期ケアを考えています。(医療行為は対応不可となっています)	重度化の際には、併設特養の看護師と朝と夕方に連絡を取り合い、情報交換し、職員が不安なく対応できるよう、日頃より周知し、チームとしての連携ができるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応には、施設内研修でもおこなっていますので、焦らずに実践できるようにはしています。事故がおきた場合でも処置は今までもできていますし、看護師も協力してくれているので安心していただいています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	この2年(コロナ禍において)は地域の方々の協力してもらえるような訓練はできていませんが、職員間では災害時の対応は常に話をして避難通路の把握はできています。	メヌエットは、福祉避難所として指定されており、災害時の対応について、運営推進会議の場において、近隣の浜脇小学校・浜脇中学校の避難所とどう違うのかという説明の機会を持ち、近隣に周知することが出来た。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『尊厳』『尊重』『人権』については施設内研修で年1回 施設長が講師となり実施しています。 グループ管理者としても職員一人一人にあった接遇マナーを考え伝えています。	毎年年度初めの4月に、尊厳等については、法人挙げての取り組みとして、職員に対して、メヌエット東館の施設長が講師となり、研修を実施している。現在施設における職員の接遇対応について、入居者・家族からの苦情は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍において外出はできておりませんが、グループホームのある階に庭園がありますので庭園を活かして対応にあたっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、『自分の意見や考えを押し付けない』よう努めています。入居されている方々の24時間に合わせた対応を心がけていますので、職員に対しての不満を現在、入居されている方々から言われたことはありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は、しっかりと洗顔をしてもらってからリビングに出てきてもらうことを心がけています。衣類も、職員と一緒に選んで着こなしてもらっています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が安らぎそして活力になることは全職員が十分にわかっているため食事レクは多いです。職員が考えるレクもあれば入居者様や家族様へ希望を聞いています。通常の食事準備や後片付けは入居者様を中心となりおこなっています。	家庭的な味わいを思い出せるように、月1回、利用者・家族に、好みのメニューをお聞きするアンケートをし、提供している。以前には近隣のファミリーレストランや、たこ焼き屋等の利用も実施していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方々の状態(状況)に応じて主治医や栄養士と相談をしています。家族様にも協力を得て好まれていた物をもってくださることもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは勿論の事、週1回デンタルクリニック往診にもきていますので、ご希望の方には対応しています。(職員と一緒に歯磨きもしています)		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやオムツが本当に『今』必要なのかは各ユニット内で話をしています。その方の排尿時間を把握しトイレへの案内をすることも徹底しています。また、紙パンツから布パンツに戻して頂いた方もいらっしゃいます。	排泄チェック表を作成することにより、時間帯により失禁のない状態を把握できる人には、家族にも相談し、紙パンツの使用を中止することが出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬になるべく頼らない。主治医への相談や職員で考え対応する事を心がけています。(足浴、きな粉牛乳、バナナジュース、体操など)		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	この時間から入浴とは基本決めていません。入居者様と相談をしています。(週2回の入浴は心がけています) 入浴を嫌がられる方は少ないです。夜に入りたいと言われる方への対応も職員間で話をしてすることもあります。	週2回の入浴を原則とし、利用者の体力面も考慮し、実施できなかった場合には、ご要望により、夜間お休みの前に、蒸しタオルでの清拭介助してさっぱり感を味わっていただく工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のその日の体調やご様子を確認しながらお昼寝の時間も作っています。また、個々のレクリエーションも各自考えて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で『同じ薬をいつまでも服用してもらう』の考えは基本ありません。往診時には、医師に確認をしながら努めています。自宅ではなく施設で暮らすに必要なものかを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般は、職員と協力しあって頂いています。(洗濯物干し、畳む。食事準備やお部屋の掃除など)このコロナ禍において食事レクが喜ばれ楽しみにして下さっている方も多いのでアンケートと募りレクの参考にさせて頂いています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において以前のように外出レクができていない状況です。グループのある階に庭園がありますので現在は、この庭園を利用してケアに努めています。(庭園の散歩や食事レク、畑の手入れ等)	以前のように気軽に出かけることはできていないが、5階にある施設の庭園などを活用して外気浴は楽しめている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の意向もあり、入居されている方々はお金を所持していません。買い物がある場合には、施設立て替えにて対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族様からかけてくださるのが多いですが対応はしています。夏は、暑中見舞いを正月には年賀状を職員と一緒に作成しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも明るいフロア(ユニット)を心がけています。畳が丘もユニット内とエレベーターホールに設置していますので好きな方は畳が丘で寛いで下さっています。毎月、ユニット内に貼る壁紙もテーマを皆さんと考えて作成しています。	換気については、コロナ禍以前より、午前中2回、午後2回の館内放送で、「今から換気します。」との案内を流し、利用者と一緒に5分程度の換気をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーターホールにも畳が丘を設置していますので居室以外でも独りの時間を大切にもてる空間は用意しています。皆さんと寛ぐ時間、居室で寛がれる時間はございます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方のお部屋を入居時には、家族様の協力のもと対応させていただきます。認知症の進行とともに家族様も含めて意見を聞かせてもらいその都度、居室内を居心地の良い場所にできるよう努めています。	居室については、職員が朝ユニットに入った時点で順次、掃除を始めており、利用者も車いすの人も、自室内を掃き掃除されたり、枕カバーの交換などそれぞれのできることを職員と一緒にして、環境整備ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行(車椅子自走)するのに邪魔にならないよう環境を整え、より安心していただけるよう努めています。		

基本情報

事業所番号	2890900109
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会
事業所名	グループホーム メヌエット
所在地	西宮市浜脇町4-33 電話 0798-38-2218

【情報提供票より】令和 3年 8月12日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成20年6月1日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤:13人 非常勤:4人	常勤換算:15.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造5階建て 5階部分
------	-----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	122,000 円	その他の経費(月額)	円	
		水道光熱費	27,000	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,640円			

(4)利用者の概要(月日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	76歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	谷向病院 西宮回生病院 ヒカリ・デンタルクリニック
---------	---------------------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	リーダーの教育と現場職員へのケア対応の取り組み	①ユニットリーダーは、18名の入居者の情報状況を把握しておく。 ②今以上に、各自が責任を持ち一人一人の現在のケアを見つめなおし新たな取り組みをおこなっていく	①ベテランとなったリーダーはユニット内の9名だけではなく18人の状態、状況把握をする上で全員の記録チェックしておく。 ②リーダーは互いのユニットに行き来して入居者との関係性もつくる。 ③現場職員が司会進行でのユニット会議 ④入居者担当による勉強会(入居者を題材とし)	12ヶ月
2	10	コロナ禍において、十分な(家族にとっては)報告ができていなかった。	家族アンケートで書いてくださっている要望に応えていく内容を報告していき更なる関係を築いていく。	月1回の家族宛 お便りや隔週単位でのメールや電話報告にて ①食の情報(どのくらい食事を摂取して。好みの変化。など) ②週単位の生活内容把握(管理者としても確認)	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った ※9月30日に今期第三回目の会議があります。
	<input type="radio"/> ⑤その他(評価結果を職員に公開して話し合いを行った。評価結果等は西宮市に提出予定。) 9月29日提出しました。
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()